



沖縄県の周産期・ 新生児医療について



産業医 田名 毅
首里城下町クリニック

産業医だよりでは、毎月私のクリニックで行っている 地域むけ医療講演会 YouTube 配信の内容を要約してお伝えしています。今月は、琉球大学病院周産母子センター准教授吉田朝秀先生に「沖縄県の周産期・新生児医療について」ご講演いただきました。新生児医療の進歩、沖縄県の取り組み等について大変参考になる内容でした。以下に、ご講演内容を要約し紹介します。

1. 新生児医療：胎児期を NICU で過ごすということ

- ・新生児とは、生後 28 日以内にある乳児をいいます。
- ・早産児とは未熟児のことでまだ胎児の状態です。
- ・早産児は 37 週未満の分娩で低出生体重児は 2500g以下をいいます。
- ・NICUで胎児発育と同等の発育を得るために様々な工夫が行われています。

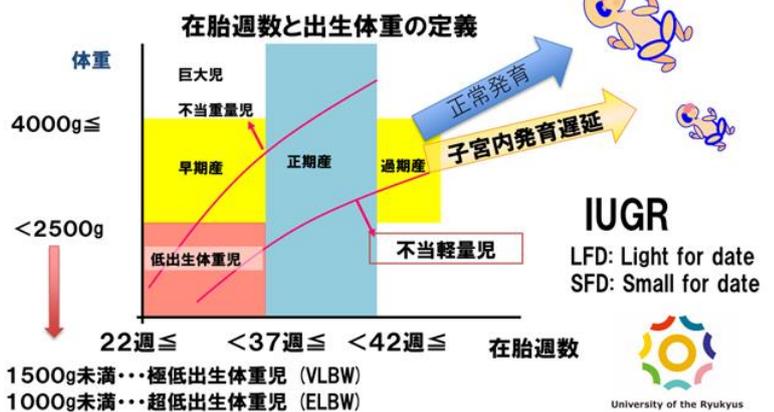
✓ 早期経静脈栄養 Aggressive TPN

- ・ アミノ酸 約3.5 g/kg/day
- ・ 脂肪乳剤 約3.0 g/kg/day
- ・ カロリー 約100 kcal/kg/day

✓ 早期経腸栄養 Aggressive enteral nutrition

- ・ 腸管粘膜保護。
- ・ 合併症(肝障害)防止。

Patti J. Thureen, Pediatr. Rev. 1999;20:45



積極的に栄養を行い胎児と同じ発育を得る努力をしています。母乳を用いる事が、早産児の合併症を減らす事が知られています。



早産児は胎児期を NICU で過ごし、胎児期と同様の成長と発達、障害なき存在を目指す医療を行っています。具体的には、呼吸循環のサポート、合併症の予防、栄養のサポート、成長発達の維持、痛みやストレスの防止など様々な観点から赤ちゃんを守ろうと治療手技を酷使した高度な集中治療です。これらの治療により超早産児(在胎 28 週未満)の 92.3%が助かっています

NICUの早産児・新生児の生存率

琉球大学病院 周産母子センター (NICU) 2010-2019調査



治療手技を駆使した高度な集中治療



2. 沖縄県の周産期・新生児医療

沖縄県の周産期・新生児死亡率は、共に全国ワーストでしたが近年は改善してきています。日本人の出生体重は30年間で約250gも低下していると言われており、10人に1人が低出生体重児として生まれてきています。その原因として、妊婦の栄養状態、多胎、高齢出産などが複合要因として考えられています。

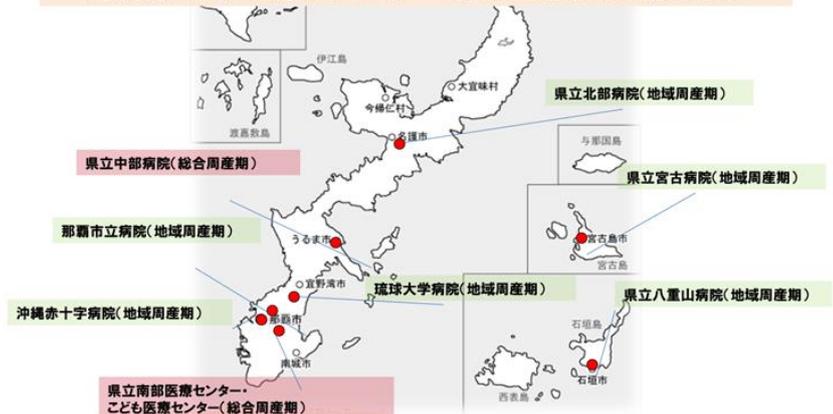
周産母子医療センターは、周産期を対象として産科と小児科・新生児科の両方が継続して母体、胎児、新生児の治療にあたる医療施設です。規模や地域での役割によって総合周産期母子医療センターと地域周産期母子医療センターがあり県内にはそれぞれ2施設、6施設あります。

施設の規模や地域での役割

- 「総合周産期母子医療センター」
- 「地域周産期母子医療センター」



沖縄県の周産期医療センター: 総合2施設、地域6施設



沖縄県の医療圏は広いので、本島以外に宮古・八重山にもNICUのある地域周産期母子医療センターがあり様々な活動を協力して行っています。県立南部医療センターと中部病院、そして琉大病院ではリスクの高い妊産婦に対する医療、高度な新生児医療を行っています。沖縄県内には75床のNICUがあり人口比だと東京都の2.2倍の設置数となります。(県内の小児科医は頑張っています！)2014年には沖縄周産期情報共有ネットワーク(OpeN)が運用開始となり県内のNICUの空き状況を確認して必要な場合は地域を超えて転院搬送しながら子どもたちの命を救っています。このシステムを利用して、人口比で東京都の2倍多い新生児救急搬送に、県内の医療機関が協力して対応しています。

OpeNに参加している医療施設

2021年3月現在 連絡網登録施設(沖縄県周産期ネットワーク協議会 調べ)

OpeN: Okinawa Perinatal information Network

目的: 空床情報共有による周産期医療資源の活用と医療者の負担軽減。

- ・ 沖縄周産期情報共有ネットワーク(OpeN)は2014年に運用開始。
- ・ 周産期搬送の発生毎に関連施設が患者情報を登録し情報収集と解析をおこなう。
- ・ 2023年よりOpeNIIが稼働中。

- ・ 沖縄県周産期ネットワーク協議会
- ・ 沖縄県産婦人科学会・産婦人科医会



3. コロナ禍に沖縄県の周産期医療で起こっていたこと

沖縄県は全国的にみてもコロナ罹患者の多い時期があり、その分妊婦の感染も多くなってしまいました。感染妊婦が感染を広げないために、帝王切開せざるを得ない時期もありました。コロナ禍の医療は災害医療に近かったと言えます。

最後に、沖縄県の周産期医療は母児のリスクを未然に防ぎ疾患を克服するために今後も尽力いたします。災害医療の一端として周産期医療も備えが必要です。沖縄県の周産期医療へのご理解をお願いします



第 239 首里城下町クリニック地域むけ医療講演会

テーマ：『不眠症～概要と対策そして治療法～』

日時：令和6年6月12日（水）午後7時～配信

講師：首里ハートクリニック 院長 安里 尚彦 先生

YouTube 配信



その他クリニックに関しては HP をご覧ください <http://www.shuri-jc.jp>

首里城下町クリニック『働く人健康支援室』は、



産業医・内科医
高血圧が専門です
田名 毅

あなたの **健康相談窓口** です！

相談窓口

産業医は、あなたの職場とそこで働く人々の心とからだの健康を支援します。

★訪問日を設けている事業所の職員は、お気軽に訪問日をご活用下さい。

★クリニック内の『働く人健康支援室』では健康相談を行っています。
事前にお電話の上、いらしてください。

★クリニック内で産業医との面談は診療の合間となりますが可能です。
事前にお電話くださり働く人健康支援室で“産業医との面談”とお声掛けください。診察や検査の必要がない限りは無料です。

★その他、電話やメール相談も随時行っています。



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー CDA
認定産業看護師
公認心理士 田名彩子



保健師・産業カウンセラー
キャリアカウンセラー CDA
與儀雅代



連絡先

首里城下町クリニック 働く人健康支援室
098-885-5000

携帯 080-4312-9200(田名彩子)
メール sien@sjc.dr-clinic.jp(働く人健康支援室)

プライバシーは守ります。
お気軽にご利用下さい！